

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギベと病の防除対策の徹底について

タマネギ早生品種において、べと病の二次感染株の発生を確認しました。現在は、早生・中晩生品種ともに感染が急速かつ広範囲に拡大しやすい主要感染期であり、極めて重要な防除時期です。

については、感染拡大を防ぐため、下記を参考に一次感染株の速やかな抜き取りと薬剤の継続的な予防散布の徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況（令和8年3月16～17日定期調査）

- ・マルチ栽培8圃場（早生品種主体）のうち一次感染株の発生を認めた1圃場でべと病の二次感染株がみられた（写真）。一次感染株も含めた平均発生株率は0.26%（平成1.9%）であり、3月3～4日に行った前回調査（0.006%）から増加した。
- ・露地栽培10圃場（中晩生品種主体）の定期調査では、一次感染株及び二次感染株の発生は認めなかった（平成0.8%）。ただし、定期調査圃場以外の露地栽培圃場で、一次感染株の発生を認めた（写真）。



写真 タマネギべと病の一次感染株と二次感染株（いずれも令和8年3月16日撮影）

※左写真はマルチ栽培圃場、右写真は露地栽培圃場。赤丸は一次感染株を、青丸は二次感染株の病斑を示す。

2. 防除対策

(1) 一次感染株の抜き取り徹底

一次感染株は周囲への伝染源となるため、**圃場の見回り**をこまめに行い、発生を認めた場合は**直ちに抜き取る**。抜き取った株は圃場に放置せず適切に処分する。

(2) 薬剤防除による二次感染の予防

- ・タマネギは鱗茎肥大期以降べと病に感染しやすくなるため、最新の気象予報や図1を参考に、**予防防除**を行う。
- ・主要感染期のジマンダイセン水和剤は10日間隔での4～5回散布を基本とするが、前回散布の7日後以降に曇雨天が予想される場合は、前倒して散布を行うなどして、**雨前の散布を徹底**する。ただし、防除効果を安定させるため、散布から降雨までの時間を、少なくとも24時間は確保する。ジマンダイセン水和剤には機能性展着剤を加用する。
- ・防除対策の詳細については、佐賀県病害虫総合防除計画〈麦類・野菜・花き・飼料作物〉を参照する。

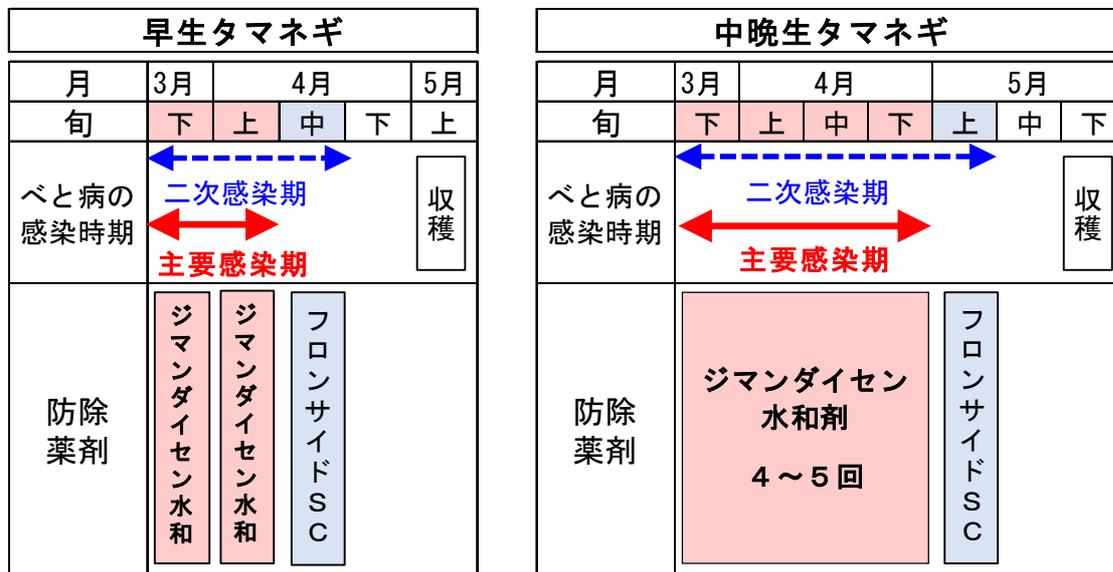


図1 タマネギべと病の感染時期と薬剤防除体系（例）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページ https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病害虫総合防除計画 https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

防除センター

二次元コード



総合防除計画

二次元コード

